

本気で実行!



産業振興計画始動! ～実行元年の活動実績～



各分野で本気で実行！

1. 地産外商

2. 食品加工

3. 第1次産業

4. 商工業

5. 観光



地産外商



体制・インフラ整備

高知県地産外商公社の設立

- 仲介、あっせんを通じた販路開拓・販売拡大
- テストマーケティングなどを通じた県産品の磨き上げ
- 新アンテナショップの運営



貿易促進コーディネーター 4名配置

- 輸出入実施のアドバイス
- 海外売り込み時のサポート、フォローアップ
- 県内企業を訪問して輸出素材の発掘



県産品の情報発信ツールの整備

- 「こうちまるごとネット」開設
県産品(販売サイトにリンク)・観光・移住情報などの玄関口となるサイト
事業者向けにテストマーケティングなども実施
URL <http://www.kochimarugoto.com/>



- 「ちやお高知」創刊
県産品を県外の方に紹介する広報紙
約2万部弱を発行し、県内観光施設に設置するほか、県外著名人に配布。また、インターネットでも公開
URL <http://www.pref.kochi.lg.jp/~kensan/cyaokochi/cyao1/index.html>



機会の拡大。そして成果の兆し(1)

県内での取り組み

○県内における素材の発掘

⇒県内商談会において**8事業者が商談成立**(米粉製品、酒類、トマトソースなど)

○高知市内でのアンテナショップ開設(予定)

2月19日(金)新京橋プラザにアンテナショップ「てんこす」オープン
テストマーケティングも含めた県内各地域の製品の販売など



そして県外へ

○県外での売り込みの機会が**昨年度の約5倍**
(62件(2/8時点):H20:13件)へと急拡大

- ・大企業グループ(例:イトーヨーカ堂、阪急阪神グループ)との連携開始
- ・首都圏、関西・中部圏での売り出し拡大 (例:東京丸ビル、アピタ名古屋空港店)
- ・商談会への出展拡大

⇒商談成立**74件**

地産外商公社の紹介を契機とした商談中のもの **168件**(2月12日現在)



機会の拡大。そして成果の兆し(2)

そして県外へ(続)

- ローソン、ファミリーマート、サークルKサンクスとこれまでに**包括協定**を締結
⇒各社において「高知フェア」として高知県産品を用いた弁当などを発売し、高知県産品の周知につなげる
- 新しい首都圏アンテナショップの場所、**銀座1丁目**に決定
⇒首都圏における新たな地産外商の拠点に



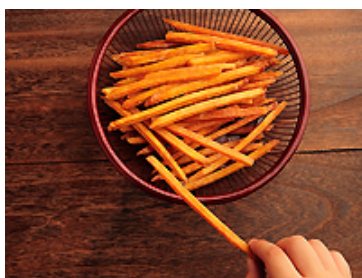
さらに海外へ

- 国内勉強会、セミナー(**香港・韓国**)開催⇒海外貿易への動機づけ
- 上海**:シティショップ(高級スーパー)常設売場設置、四国アンテナショップ開設
- シンガポール**:伊勢丹四国フェア⇒**定番化6品目**(ユズ製品、菓子類など)
- 香港**:商談会を企画・実現 ⇒**即日成約12品目**(ユズ製品、酒類、麺類など)
後日さらに9品目成約(ユズ製品、ゼリー)
- さらに、**シンガポール・ニューヨーク**へのグロリオサの売り込み、**オランダ**へのメロン輸出、**タイ**への新高梨輸出などを実現





食品加工



管理体制の整備、現場支援(1)

生産管理の高度化(衛生管理の向上を含む)

- 食品衛生・食品表示についての研修を実施(3回、210名)
- 生産管理に関する個別指導等
 - ・専門家による基礎調査・改善点などの個別指導(20業者)
 - ・アドバイザーによる個別指導(26業者)
- 業種ごとの自主衛生管理マニュアルを作成(20タイプ)

「売れる商品」に向けた支援体制の充実

- アドバイザーによる支援制度を各分野において活用(45名、194回)
食品加工の各分野においては、
 - ・地域アクションプランに関する支援(7地域、延べ27回)
例：特産物を活用した商品開発、試作品の提案
 - ・食品加工企業などに対する個別支援(10業者・団体を支援)
例：肉の熟成度や魚の鮮度といった素材の強みを理解した上での商品開発の重要性をアドバイス
- パッケージデザインの作成・改善支援(約50企業で実施中)
- 高知県食材の加工を通じた可能性の追求
 - ・産地と加工者のパイプ作り
 - ・商品開発、試作、レシピ開発を支援
例：ピーマンの下級品を活用したおにぎり具材(高知市)、トマトピューレー(香南市)
- 食品加工企業に対する加工品生産及び販路確保等に対する個別支援(12業者)

管理体制の整備、現場支援(2)

「売れる商品」に向けた支援体制の充実(続)

○新商品開発の技術支援

- ・工業技術センターに**食品加工特別技術支援員**を新たに配置。56社に新商品開発などの支援

⇒**10件**が、既に商品化または商品化に向けて有望

例：(有)タネヒサの栗甘露煮(商品化済)、魚介類のくんせい品(商品化予定)



全国的に著名なスーパーバイザーによる販路拡大支援(例)

- 山本謙治氏：土佐あかうしの良さを宣伝するため、ブログでの紹介に加え、試食会をプロ・マスコミ向けに企画・開催
- 熊谷喜八氏：ユズ、土佐はちきん地鶏を用いたレシピの作成、情報発信(NHK「きょうの料理」、共同通信、毎日新聞)
販路の紹介(土佐の清水さば、ユズ加工品)
- 玉沖仁美氏：ホテル『コンラッド東京』の料理店(日本料理「風花」)における“土佐あかうしフェア”(3/2~3/31)開催への協力
- 堀知佐子氏：コンビニエンスストアや高級料亭とタイアップした商品開発(予定)
NHK「きょうの料理」にて高知野菜を紹介(予定)

管理体制の整備、現場支援(3)

新産業の創出に向けた研究会開催

○成長分野育成支援研究会を、食品分野において6回開催

例：(有)アオイコーポレーション(香美市)

高齢者用軟化食提供事業について事業化プラン認定

県内の食品加工業生産能力の増強

○本県の誇る素材(ユズ・トマト)などを生かした加工工場の新增設

⇒県内食品加工業の発展

- ・ユズ香油企業の工場を県外から誘致実現(予定)
- ・トマトジュース工場の増設⇒40人規模の雇用創出
- ・芋菓子製造工場の増設



続々とあらわれる新しい芽の息吹(1)

地域アクションプランに掲げられた取り組みが続々と着手されつつある。

○土佐はちきん地鶏(大川村)

- ・6万羽の生産体制の確立。加工商品を開発・販売・PR

○ユズ(北川村・高知市土佐山)

- ・搾汁施設の整備

⇒搾汁実績 北川村2,070t(H2O:1,190t) 土佐山1,200t(H2O:763t)

○米粉(嶺北地域全域)

- ・米粉加工品(例:うどん)の保管庫(一部は冷凍庫)などの整備
- ・商談会・販促活動の実施(コープかがわ(香川県)で、れいほくコーナーを5店舗で開設)

○シイラの加工(香南市・四万十町)

- ・前処理加工施設(香南市)、惣菜加工施設(四万十町)の整備

⇒浜値の上昇

香南市:常時最低価格30円/kgを維持(これまでは商品価値のほとんどない2kg以下の小型魚)

四万十町:前年同期に比べて74円/kgの上昇(171円、7~9月平均単価)

○メジカの前処理加工(土佐清水市)

- ・メジカ選別用作業台の整備により、一次処理量が例年の倍程度に増加

続々とあらわれる新しい芽の息吹(2)

地域アクションプランに掲げられた取り組みが続々と着手されつつある。

○きびなごの個体別(バラ)凍結、ブリ・サバ・タイなどのフィーレ(宿毛市)

・加工施設の改修工事、機器類の整備

⇒学校給食や病院・介護施設に向けた販路拡大

○メサバ、サバのフィーレ(室戸市)

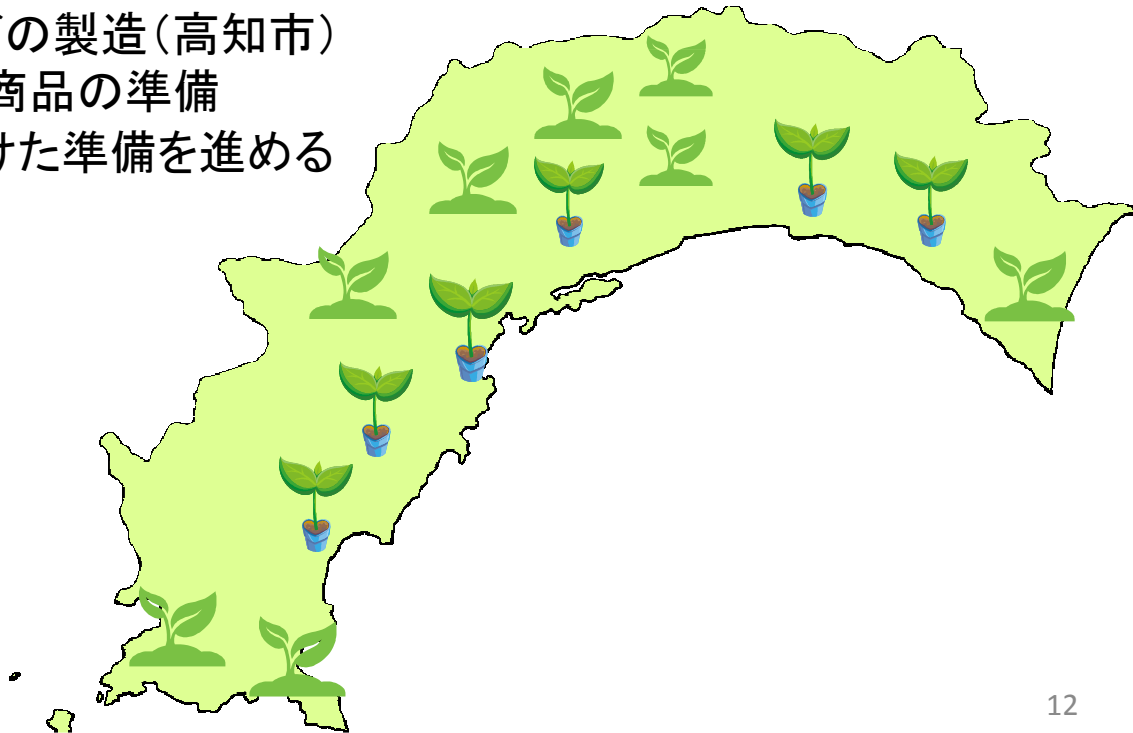
・加工施設の整備、加工業者と漁協による連携事業計画の締結

⇒H26年度までの5年間累計(予定)原魚買付量850t、雇用11名

○乳製品を加工した菓子などの製造(高知市)

・菓子製造機器類の導入、商品の準備

⇒4月～5月の開店に向けた準備を進める





第1次産業



担い手の確保・高度化

窓口の整備

- 都市圏のUIJターンなどの移住相談会に参加
 - ・平成21年度の参加数は20回(予定含む)に増加
 - ・相談者数は既に昨年度を上回る(約300件(1月末現在):H20、250件)
- 移住コンシェルジュを3名配置
 - ・移住・定住を希望する人へのワンストップ窓口
 - ・高知で暮らしていくために必要な、農業などの仕事情報、住居情報などをあわせて提供
- クラインガルテン(滞在型市民農園)利用者募集
⇒移住のための試用期間としての活用も期待



2010年4月オープン

農業

- 新規就農者:161人
(前年度114名から41%増)
- 指導農業士(指導者):
20市町村・38人(前年度は
16市町村・29人)

林業

- 提案型の集約化施業
を实践可能な森林施業
プランナー:
17森林組合・19人

水産業

- 新規漁業就業研修生:
7名(例年2名程度)
⇒研修(2年間)受講者
は13名に(例年5名
程度)

農業（１）

生産の足腰を強める

農業者の技術向上

「学び教えあう場」を設置（170カ所）

⇒安芸のナス出荷量が前年比17%増、土佐くろしおのキュウリ出荷量が前年比11.7%増
（注：H21園芸年度の安芸集出荷場、土佐くろしお集出荷場によるもの）



再生稲、飼料用稲の栽培促進

低コスト生産が可能な再生稲、飼料用稲の作付面積が前年比約2倍に

⇒県内の飼料自給率向上につながり、輸入飼料の価格変動リスクを低減



環境保全型農業のトップランナーの地位を確立

- ・先進地であるオランダ・ウェストラント市との協定締結
- ・土着天敵温存ハウスを活用する市町村が増加（3→10）し、天敵導入面積率が増加（ナス類41%→47%、ピーマン類59%→69%、）



（参考）平成20年農業産出額は、米や野菜の生産量増加、価格上昇により前年比5.4%増の1,026億円となり、5年ぶりに1千億円の大台に乗った。

農業（２）

付加価値を加え、県内外へ打って出る

関東・関西量販店との連携

- ・新需要開拓マーケティング協議会の設立
- ・東急ストア、セイミヤ、関西スーパー、おおさかパルコープとパートナーシップを構築。県産野菜等フェアを実施し、定番化へ（例：1月に東急ストア関東51店舗において高知フェアを開催）
- ・環境保全型農業のトップランナーの地位を確立する取り組みなど、高知県野菜の付加価値を向上する戦略を共有し、他県野菜と差別化して販売



土佐文旦初の県域組織結成

⇒「土佐文旦」の効果的な消費拡大策を、**県内の大半**の土佐文旦生産者や団体により検討・実践



土佐の肉や卵を広める

郷土が誇る食のブランド「土佐あかうし」「土佐ジロー」「土佐はちきん地鶏」につき、販売・飲食店への販路開拓を推進

⇒「土佐はちきん地鶏」の取扱店は、**33%の増加**（250店）



林業（１）

生産の足腰を強める



木材生産の効率化

効率化した木材生産を行うために整備された「森の工場」を、今年度中に新たに5,928ha認定（昨年12月時点。今年度の認定目標に対し、88%の進捗率）

事業体の育成・競争力の強化

- ・全ての森林組合が地域に抱える課題の解決に取り組み、うち5森林組合が高い収益力を目指す経営ビジョンを作成
- ・提案型の集約化施業を実践できる森林施業プランナーの育成（再掲）
⇒17森林組合19名
- ・建設業から林業への参入
⇒18事業体



環境ビジネスへの端緒

全国初のCO₂排出削減量のオフセット・クレジット（J-VER）認証を受ける。高知県は、認証されたクレジットの唯一の販売実績を持つ
⇒森林整備が促進され、環境ビジネスを創出

林業（２）

付加価値を加え、県内外へ打って出る

県産木材の県外への販路拡大

- ・関東・関西・四国（27業者）を訪問し、新たなネットワーク作りや販売ルート開拓の契機を見出す
- ・関東、関西で流通の拠点の確保や特別市（県産木材主体の見本市）の開催に向けた事業者の協力を確保
- ・関東の工務店や設計事務所を対象とした県産木造住宅PRのセミナーを開催し、取引量の拡大を目指す
- ・INAP木浦会議（韓国）の参加を契機に、韓国の建築業者と相互訪問を行い木材輸出に向けて商談中

県産木材の地産地消の推進

- ・公共的建築物の**木造化（23施設）**、県産木材利用住宅の**建築（305戸）**を支援
- ・小中学校などでの**木製の机・椅子等の導入**（26団体42施設）

森林の資源（「森のもの」）の有効活用と販路の拡大

- ・木質バイオマス（未利用林地残材）の**利用量が約4倍**に（H21：20,000t）
- ・木質ペレットを使用するボイラーの導入拡大、台数は昨年度に比べ**約3倍**に（74台）
- ・共同利用の炭窯を新たに**4基設置**
⇒後継者の育成、炭の生産能力向上に向けての取り組みが始動



水産業（１）

生産の足腰を強める

漁獲効率の向上

漁獲効率を高める「黒潮牧場」を3基新たに設置

高知の漁村が潤うように

高知の漁港に寄港を促すため、地元カツオ船への活餌供給体制を確立、供給開始

⇒漁船が寄港すれば、水揚げ高の増加や漁船の燃油補給などにより地域経済の活性化が期待できる

高知県漁協が「土佐の魚」を県内外に売り込み

県内量販店10店舗において週3回「土佐の魚」を県漁協が直接供給
⇒今後は県外の業務筋、大消費地との取引拡大を目指す



県産水産物の消費拡大

- ・県内向け：
 - ・県産水産物をPRするホームページ「サカナチカラ コウチカラ」開設
URL <http://www.kochi-marugoto.com/sakana/>
 - ・TVCM、量販店などとのタイアップキャンペーン
- ・県外向け：消費地（大阪）の市場関係者を招聘し、県内流通加工事業者などとの交流会や現地視察を行い、高知県の認知度・評価アップと取引拡大を図る

水産業（２）

付加価値を加え、県内外へ打って出る

前処理加工・冷凍保管の事業化の推進

地域の特性に応じて作成した加工事業化モデルに基づき、各魚種についてフィーレ加工の試作品製造やチルド流通などの実証試験を実施

⇒この結果を前処理加工の事業化に前向きな漁協などの事業化につなげていく

養殖生産物グループの活動促進

- ・須崎地区：低迷する魚価の付加価値を高めるため、マダイ養殖生産者グループと地元企業による協議会を開催
⇒地元企業と生産者グループが連携。築地の業者を産地へ招へいするなど販促活動を開始
- ・宿毛地区：すくも湾漁協養殖部会が始動。養殖魚の加工・販売計画策定に着手
⇒本年度、総合補助金を導入して整備した加工施設を活用し、加工体制の確立を目指す



高知県イメージキャラクター
「くろしおくん」

for the **NEXT GENERATION**

次の時代を切り開く技術を、革新を

Kochi Prefectural Industrial Technology Center

高知県工業技術センター



商工業



高知県海洋深層水研究所



高知県紙産業技術センター



財団法人 高知県産業振興センター



生産基盤の充実

外貨を稼ぐ産業づくりを目指す取り組み

産業を支える人材育成

- 技術研修(工業技術センター)を昨年度の約8倍の方が受講(619人)
⇒企業人材のレベルアップに寄与
- 高校生が県内企業を知る契機となる企業実習などを実施
⇒事業実施校が約66%増、協力企業がおおよそ2倍になり、高校生が就職を考える際に県内企業も候補に

企業立地の推進

- 9件の企業立地が今年度中に実現見込み
⇒新規雇用400人、出荷額90億円増の予定
(H18~21 新規雇用2,000人 工業出荷額1,200億円増の見込み)
例：中部農材(株) (農業用包装資材製造など) (津野町)
エフビットコミュニケーションズ(株) (集合住宅におけるインターネットヘルプデスクなど) (高知市)

新しい産業への挑戦

潜在力のある分野への重点的支援（「企業研究会」）

○4分野（食品、天然素材、環境、健康福祉）の成長が期待される分野に重点的支援（156社が参加）

⇒4件の事業化プラン認定（平成22年度は、21件が事業化予定）

例①：健康福祉：三昭紙業（株）

消毒用ウェットティッシュの開発製造販売

- ・ 日本で数少ない不織布から最終製品までの一貫生産であり、商品開発と製造工程の密接な連携が図られている
- ・ 「医薬部外品」化して効能をうたうことなどにより、独自性のある商品開発を目指す

例②：天然素材：三和製紙（株）

ドリップシート（食品トレイで陳列する魚などの生鮮食品の下に敷く紙）の開発

⇒水分の吸収速度が速く、逆戻りが少ないため鮮度保持効果が高い



観光



観光地「高知」の魅力向上（１）

NHK大河ドラマ「龍馬伝」を契機とした
「土佐・龍馬であい博」を確実に成功に導く



そのため様々な分野において、観光地
「高知」の魅力を高める取り組み

プロ（旅行会社など）向けの宣伝

- ・プロモーション活動の展開（例：エーгент向けの龍馬博説明会及びエーгент訪問によるPR）
- ・エーгентを招いたモニターツアーの実施（西部～中央エリア：2回、東部～中央エリア：1回）
⇒高知県を行先とするツアー商品の造成が昨秋から実現
現在まで様々な旅行代理店など（例：JTB、近畿日本ツーリスト）により**約70の旅行商品が販売**



観光地「高知」の魅力向上（２）

一般観光客向けの宣伝（例）

- ・ポスター、パンフレットによるPR、PRキャラバンが全国各地を周回
- ・「龍馬博」をPRするラッピングバス（土佐電鉄、県交通）、ラッピング列車（JR四国）
「龍馬伝」をPRするラッピングジェット（ANA）の運行
- ・テレビ・雑誌などによる全国へのPR（例：福留功男氏出演 BS日テレ「こじゃんと土佐流～土佐浜街道を行く～」、JAL・ANA機内誌特集記事）
- ・東京での原宿表参道元氣祭スーパーよさこい、ドリーム夜さ来い、名古屋のにつぽんど真ん中まつりなどのイベント、東京丸ビルイベント「龍馬と土佐の志士たち」におけるPR
- ・テーマ別周遊チラシ「トサコレ！」（全70種類）を配布（とさてらす、各サテライト会場）

県内の観光地を結ぶ交通手段（2次交通）の整備（例）

- ・「MY遊バス」毎日運行
コース：高知駅～上町～五台山・牧野植物園～桂浜（1月休日平均127人（対前年比56.8%増））
- ・ガイド付周遊観光バス
東部（岩崎弥太郎生家、土居廓中、モネの庭、中岡慎太郎館など：毎日運行）
高知市及びその周辺（高知城、五台山、牧野植物園、桂浜など：木～日・祝日を中心に運行）

観光地「高知」の魅力向上（3）

県内の観光地を結ぶ交通手段（2次交通）の整備（例）（続）

- ・JR四国「駅から観タクン」（JR主要駅から通常より低料金で観光地を巡るタクシープラン）
- ・周遊観光タクシー
- ・土佐清水サテライト会場無料送迎タクシー



観光資源の磨き上げ（例）

- ・中岡慎太郎館を核とした観光振興・地域産品販売の拡大への取り組み（北川村）
- ・森林鉄道遺産を活用した取組（奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村）
- ・旅行商品化を図るため観光遊覧船を1隻追加導入し、定員増加（高知市）
- ・アドバイザーによる体験プログラムインストラクター養成講座の実施
- ・観光案内板・誘導標識の整備（23市町村・161箇所）

大型バスツアー客
（30名程度）にも対応
が可能に！

「おもてなしの心」の育成（例）

- ・接客技術がすぐれ、ワンランク上の観光知識を有する「観光ガイドタクシー」認定
- ・観光施設、宿泊施設を対象としたマナー講習の実施

あらわれ始めた成果

これらの取り組みなどにより、高知県への
観光客は増加

延べ宿泊者数が増加

- ・延べ宿泊者数(平成21年7月～9月、前年同期比)は、全国では減少している(▲2.1%)にもかかわらず、**高知県では増加(+2.6%)**

観光施設入込客数も増加

- ・観光施設入込客数(平成21年7月～12月、前年同期比)
全体では+3.6%
特に「龍馬の生まれたまち記念館」入館者数:+44.4%
「坂本龍馬記念館」入館者数 :+42.1%



いよいよ本番！！

大河ドラマ「龍馬伝」の放送開始

「土佐・龍馬であい博」の開幕

- ・メイン会場「高知・龍馬ろまん社中」、併設する高知観光情報発信館「とさてらす」
 - ・サテライト会場「安芸・岩崎弥太郎ころろざし社中」「土佐清水・ジョン万次郎くろしお社中」「ゆすはら・維新の道社中」
- ⇒高知の強みである人、食、歴史、自然などを生かして、これまでの取り組みを継続し、さらに高知の東から西まで全体の魅力を高めていく



